

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号について

天城町のトルコギキョウでトルコギキョウ斑点病 *Pseudocercospora nepheloides* の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。
なお、病害虫防除所ホームページ (www.jpnpn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

令和2年5月18日
鹿児島県病害虫防除所

- 1 病害虫名** トルコギキョウ斑点病
病原菌：*Pseudocercospora nepheloides*
- 2 発生作物名** トルコギキョウ *Eustoma grandiflorum* (リンドウ科)
- 3 発生確認および病原菌の同定**
 - (1) 発生確認 令和2年1月
 - (2) 発生状況 天城町施設栽培のトルコギキョウで、下葉にすす状の斑点症状を呈する株が、ほ場の局部に確認された(図1, 2)。
 - (3) 同定機関 鹿児島県農業開発総合センター大島支場及び鹿児島県病害虫防除所
- 4 病害の特徴**
 - (1) 病原菌
病原菌は、糸状菌の一種で不完全菌に属する。分生子座は濃褐色で直径26.9~45.6 μ m(図3)、分生子柄は淡褐色~褐色で子座上に束生する。分生子は無色(淡オリーブ色)の倒棍棒状で、大きさは25.7~43.3 μ m \times 3.8~4.9 μ m、0~7個の隔壁を有する(図4)。
 - (2) 宿主植物
現在確認されている宿主はトルコギキョウのみである。
 - (3) 病徴
葉に5~10mm程度の退緑斑を生じ、後に葉の表と裏に黒~灰褐色のすす状病斑となる。病斑は下位葉を中心に発生し、上位葉へ伸展する。病斑上に多数の小黑点(分生子座)を形成する。
 - (4) 伝染方法
盛夏を除き、ほぼ年間を通して発生するが、特に春から秋の多湿条件下で多発する。生態や伝染環についての詳細は不明であるが、育苗中及び本ぼで発生し、病斑上に形成される分生子により伝染する。
 - (5) 発生確認及び分布
平成20年に福岡県で初めて発生が確認された。平成29年に福岡県、高知県、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県で、平成30年に和歌山県、沖縄県、広島県、福島県、宮城県、島根県、千葉県、岡山県、栃木県で、令和元年には、群馬県、茨城県、鳥取県で特殊報が発表されている。
また、海外ではアルゼンチン、米国、ドミニカ共和国で発生している。
- 5 防除対策**
 - (1) 多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の通風及び換気に努める。
 - (2) 発生を認めた場合は、発病葉を取り除いたのち、花き類の斑点病に登録のある薬剤で防除を行う。
 - (3) 罹病株の残さは伝染源となるため、施設外に持ち出し適切に処分する。
- 6 参考文献等**
 - (1) 成山秀樹(2018)：植物防疫 第72巻第9号46~49
 - (2) 安部智子(2017)：植物防疫所病害虫情報 第112号6



図1 ほ場での発生状況



図2 葉のすす状病斑

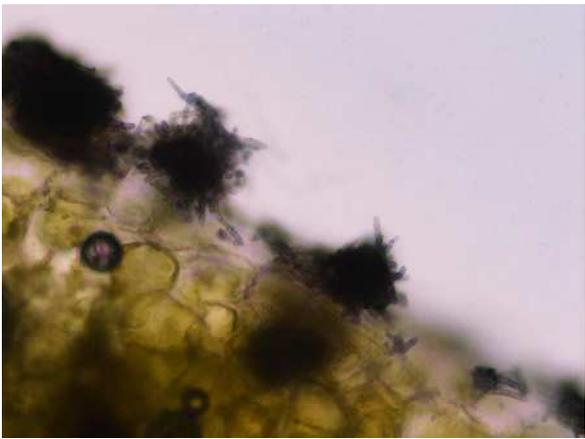


図3 分生子座



図4 分生子